

みよし野ガーデン里山探訪

日本農業遺産「武蔵野の落ち葉堆肥農法」を軸に平地林（ヤマ）や農地を観光資源としています。



(ガーデンツーリズム) 庭園間交流促進計画登録審査会 審査員から評価の声

三芳町のガーデンツーリズムについて一定の評価とアドバイスをいただきました！

三芳の皆さんには頑張ってもらいたい。緑地政策としても非常に重要な課題

ガーデンツーリズム全体の中で里地里山をどう取り入れていくか、今後の試金石になるような提案

今までに無いような展開のツーリズム



1 3 6 令和の森公園にオープンした噴水。2 平地林では昆虫や鳥などの生き物と出逢えることも。4 緑に囲まれ、歴史を感じられる多福寺の山門。5 7 季節には花畑が広がるスポットも。6 平地林は先人から受け継いだ町の魅力のひとつです。8 町の指定文化財、旧島田家住宅。囲炉裏では現在も薪を燃やしています。10 月の原ガーデンでは英国風の庭が見られます。



みよし野ガーデン里山探訪

三芳らしさを詰め込んだ小旅行

近

年の長引くコロナ禍の影響で、遠距離の旅行のハードルが高くなっている今、注目を浴びている言葉があります。マイクツーリズム。自宅から近い地元や近隣への「短距離観光」のことで、人の移動と「二密」を避けることで感染リスクを抑えながら旅気分を味わうことができ、再訪もしやすい特徴があります。

ガーデンツーリズム登録制度

このマイクツーリズムの考えを取り入れたのが、「ガーデンツーリズム登録制度」です。国土交通省が創設した制度で、各地の日本庭園や花の公園などの庭園文化に観光資源として着目し、複数の庭園を共通のテーマで結びつけて登録します。



▲ガーデンツーリズムイメージ図

それぞれが連携して個性を際立たせ、魅力の磨き上げや交流を生みだすことが期待されているこの制度。今、三芳町で登録をめざす動きが進んでいます。

みよし野ガーデン里山探訪

三芳町の地域は、平安時代、美しい草原を意味する「みよしの」と呼ばれ、原野が広がっていました。水が乏しい地域に開拓の鉄が入ったのは江戸時代のこと。痩せた土壌を改良するため、平地林（ヤマ）を人工的に形成して行う落ち葉堆肥農法は現代まで受け継がれ、2017年に日本農業遺産に認定されました。都市近郊にありながら多く残る平地林（ヤマ）と農地。私たちに癒しを与えてくれる緑溢れる景観は、伝統農法を連続と続けてきた賜物です。

これらの魅力を発信するため、日本農業遺産が息づくこの里山地域の景色を「庭」と捉えたのが三芳町が進めるツーリズム計画です。

今月の特集は「みよし野ガーデン里山探訪」。マイクツーリズムの選択肢となる、この地域の「庭」の魅力を探ります。